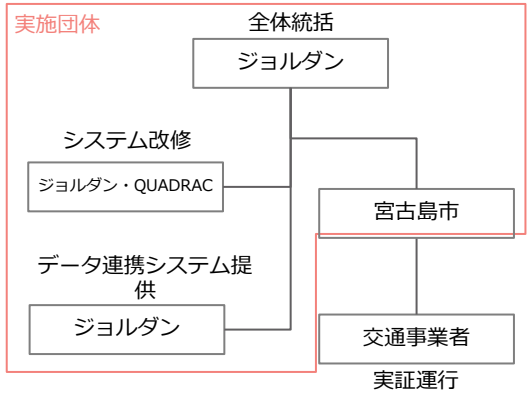
宮古島MaaS推進事業｜ジョルダン株式会社

プロジェクト概要	宮古島におけるクルーズ船寄港時を中心とした通年でのオーバーツーリズム問題の解決と島内路線バスの利便性向上および利用促進のため、「宮古島周遊フリーパス」のアクティビティ拡充と、路線バスとタクシーの連携強化、相互補完による利便性の高い島内周遊等の観光体験をインバウンドを含む観光客に提供し、レンタカーでの観光から公共交通での観光を推進する。

課題	● クルーズ船寄港時にはタクシーが捕まらない等、地元住民の移動が困難な状況が発生しており、2026年は109回（25年78回）の寄港が見込まれ対応が急務。 ● 島内観光においてはレンタカー利用が主流となっており、車両数増加に伴い事故等も増加傾向にあるため、公共交通の充実による環境改善が求められている。
取組内容	**［交通サービスの高度化（マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供）］** ● MaaSアプリからタクシーの配車を可能とする機能の開発、シェアサイクル等の圏域内モビリティの拡充を実施。 ● インバウンド対応として、多言語対応を実施。 **［モビリティ・データの取得と活用］** ● 本取組みの利用実績を元に、自走化に向けた価格設定の検証および路線バス路線再編、運賃体系などの見直しに活用 **［エンドコンテンツとの連携］** ● 宮古島周遊フリーパスへのアクティビティ拡充により、公共交通利用機会の増加と広域的な回遊体験の提供による観光消費の拡大を図る。 **［協業化・共通化・標準化］** ● 交通サービスの高度化で国交省が定める「QRチケット認証API標準仕様書」（仮）に準拠したQRチケッティングシステムを導入し、ジョルダンモバイルチケットサービスと認証機器で周遊企画券のチケット認証を実現する。（共通化）
効果	● 利便性の高い公共交通利用を促進できるサービスを提供することにより、観光客の周遊・滞在・消費の促進を実現、またインバウンド対応により事業者対応工数の削減、混乱抑制効果を見込む。 ● チケットの利用数の増加により、交通再編への参考となる利用データの集計が増加
事業の新規性	■ 多言語対応、情報発信強化によりインバウンド増加によるオーバーツーリズムの問題解決、未然防止の取組みを推進していく。 ■ アクティビティ拡充および価格改定を行うことで、優位性の高いチケットを展開。レンタカーが主流の公共交通を活用した観光への行動変容を実現させる。

事業エリア	沖縄県宮古島市
交通事業者	バス事業者：宮古協栄バス、八千代バス、共和バス、中央交通 タクシー事業者：宮古島タクシー事業協同組合（14事業者） シェアサイクル（調整中）
MaaSアプリ等	● MaaSプラットフォーム：ジョルダンモバイルチケットサービス ● QR認証：Q-move、ジョルダンモバイルチケットサービス ● 経路検索機能：乗換案内 ● ダッシュボードシステム：Google Looker Studio
データの活用等	■ データの取得方法：MaaSアプリから利用者情報、バスのODデータを車載システムから取得 ■ データの活用方法：MaaSサービスの利用データやODデータをLooker Studio上で可視化し、バス路線再編の検討に活用。

座組



スケジュール

4～5月　要件定義

5～8月　システム開発

9月～12月　実証運行

1月～2月　効果測定

Copyright © 2026 by MLIT. All rights reserved.